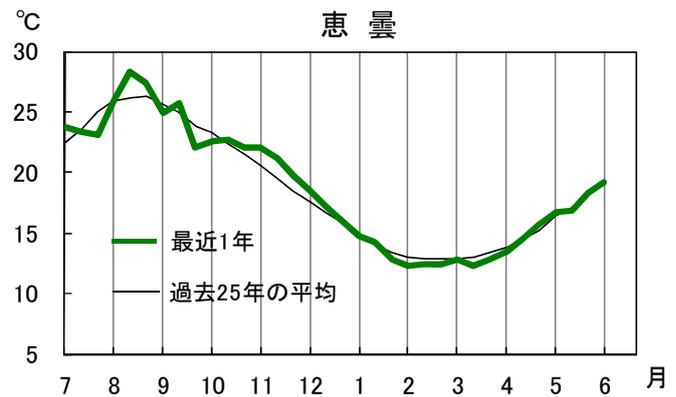
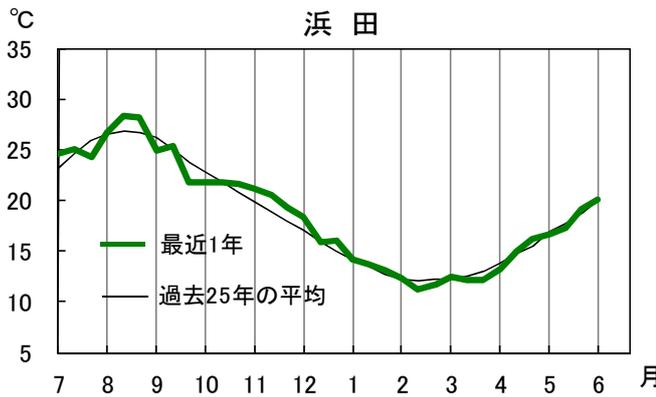




《5～6月の海況》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	17.8℃	-0.04℃	平年並み
恵曇	17.5℃	+0.1℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田・恵曇地区とも、5月は「平年並み」で推移しました。6月に入り月上旬時点で両地区とも「平年並み」で経過しています。


 《5月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）では、マアジ、スルメイカ主体の漁況で、1ヶ統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、マイワシ主体の漁況で、1ヶ統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。マアジの漁獲量はどの地区においても平年並みとなり、県西部ではスルメイカの水揚げが平年の5倍となりましたが、サバ類、カタクチイワシは1割程度にとどまりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）では水揚げがありませんでした。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカ主体（全体の100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は70kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではアナゴ類、ムシガレイ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は9.3トンで、平年の7割の水揚げに止まりました。アナゴ類は平年の1.2倍、ケンサキイカは平年の1.5倍の水揚げがありました。一方、ムシガレイ、ソウハチ、ヤナギムシガレイは低調に推移し、平年の4～5割の水揚げに止まりました。このほか、キダイは平年の1.9倍、アカムツは小型魚主体に平年の1.2倍の水揚げがありました。

【小型底びき網漁業】

和江地区ではソウハチ、久手地区ではニギス、ソウハチ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は、平年並み～やや上回りました。ソウハチは平年並み～やや下回りましたが、ニギスは平年の1.3～1.9倍の水揚げがありました。このほか、アナゴ類、ヒレグロが平年を上回り、好調に推移しました。一方、キダイ、ムシガレイ、スルメイカは低調に推移し、平年の2～8割の水揚げに止まりました。

【定置網漁業】

石見地区ではブリ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はブリが平年並みであり、全統の総漁獲量も平年並みとなりました。出雲地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はブリ、マアジが平年並みであり、全統の総漁獲量も平年並みとなりました。隠岐地区ではブリ、マアジ、カワハギ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はブリが平年並みだったものの、マアジが平年の1.8倍、カワハギが7倍と好調であり、全統の総漁獲量は平年を上回りました。

【釣・縄】

石見地区ではブリ、アマダイ、カサゴ・メバル類が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年を下回りました。出雲地区ではブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は25kgで平年を下回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイ、マダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの総漁獲量は17kgで平年を下回りました。

【平成 24 年 5 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ、スルメイカ	216トン	74%	53%	10トン	84%	67%	▲
	西郷	マアジ、マイワシ	4,142トン	45%	73%	50トン	40%	70%	○
	浦郷	マイワシ、マアジ	3,392トン	58%	102%	51トン	51%	94%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	水揚げなし	—	—	—	—	—	—	—
	西郷	スルメイカ	8トン	50%	51%	70kg	63%	73%	▲
沖合 底びき網	浜田	アナゴ類、ムシガレイ、ケンサキイカ	187トン	53%	53%	9.3トン	71%	76%	▲
小型 底びき網	久手	ニギス、ソウハチ	199トン	132%	114%	761kg	123%	99%	◎
	和江	ソウハチ	380トン	131%	136%	933kg	127%	113%	◎
定置網 (大型)	浜田	操業なし	—	—	—	—	—	—	—
	美保関	ブリ、マアジ	100トン	147%	84%	991kg	131%	83%	▲
	浦郷	マアジ、カワハギ	49トン	174%	152%	2トン	181%	146%	◎
釣り・縄	仁摩	ブリ、カサゴ・メバル類、マアジ	11トン	83%	110%	23kg	54%	83%	○
	大社	ブリ	27トン	88%	78%	44kg	91%	93%	○
	西郷	カサゴ・メバル類、スルメイカ	7トン	89%	68%	22kg	73%	70%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを—、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を—、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を—とした

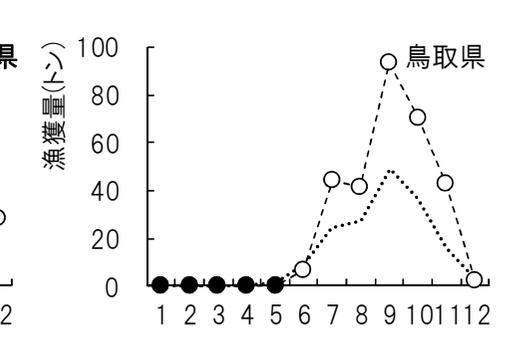
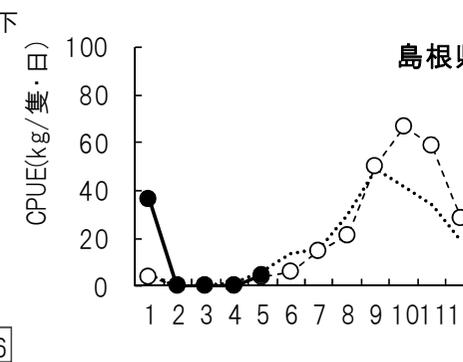
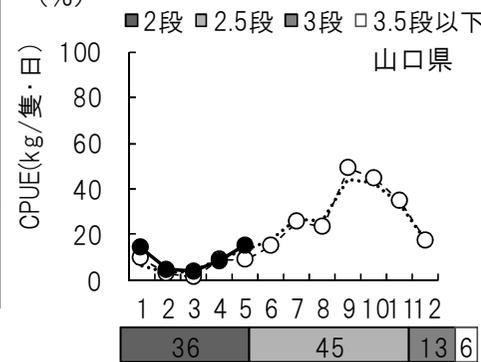
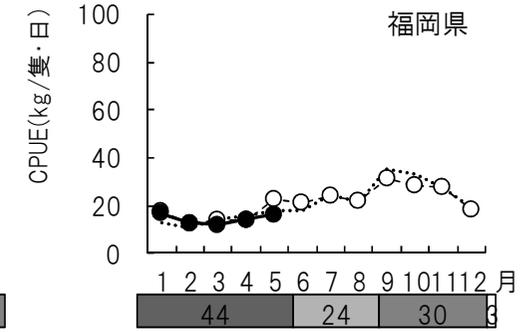
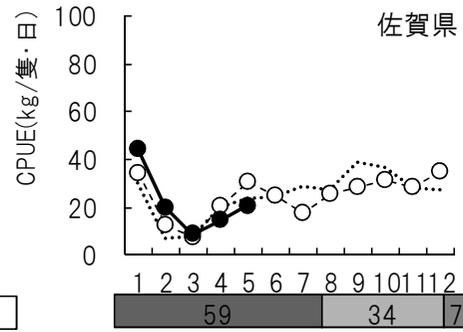
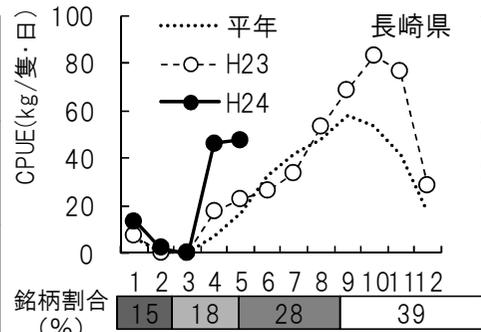
【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I:5月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	水揚げはほとんどありませんでした(漁獲量集計中)。
島根県	主要7港の水揚量は75kgでした(前年比22%、平年比3%)。
山口県	漁獲量は前年(前年比80%)及び平年(平年比90%)並みでした。
福岡県	漁獲量は前年比 68%、平年比 96%と、前年を下回り、平年並でした。
佐賀県	漁獲量は前年比 66%、平年比 85%と、前年・平年を下回りました。
長崎県	漁獲量は前年(1.58倍)・平年(2.25倍)を上回りました。



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

II:6月上旬の底層水温

鳥取県	水深100m付近の底層水温は16℃前後でした。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は3~16℃でやや高め~かなり高め、高山沖は3~17℃で平年並み~やや高めでした。
山口県	沖合の冷水域を除くと、15~18℃で平年並みでした。
福岡県	沿岸域の水温は、底層で18~19℃台とやや高め、沖合域では、底層で15~17℃台と平年並み~やや高めでした。
佐賀県	壱岐水道では19.2~19.6℃で平年よりやや高め、対馬東水道では14.7~18.7℃で平年並み~やや高めで推移しました。
長崎県	6月の底層水温は15~17℃台で概ね平年並みでした。

